八幡事業所 Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所 Tel.Fax 647-3210
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp
HP:http://www.npo-sawayaka.net/

さわやか

2023年12月15日
第３２３号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

送迎の実態と事務の状況を把握するための調査

十一月二十一日（火）午前十時から、「福祉有償運送の実態に係る実地調査」が八幡事業所で行なわれました。北九州市の福祉有償運送を担当する、保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課より、平田典子係長と糸長博美主任が来所されました。

この実態調査は、毎年この時期に行なわれており、行政と北九州市福祉有償運送運営協議会が各事業所の送迎の実態を把握するための調査です。

今年は八幡事業所で行なわれました。

感染症の予防対策をしながら行われました。

送迎時の事故や苦情の対応の確認を

初めに、平田係長と糸長主任は「活動報告書及び車両点検表」の確認や、運転ボランティアさんに対する点呼の方法、車両の運転前の点検方法などを確認していただきました。

続いて、最新の運転名簿や自動車登録簿、利用者名簿、利用料金一覧、領収証などの必要書類がきちんと揃っているのかを確認されていました。

次に、送迎時の事故や苦情などの対応の確認、送迎時に必要な福祉有償運送運転者証や自家用旅客運送者登録証、運転協力者修了証の確認、送迎時の車にステッカーが貼っているのかなどを確認されていました。

その他に、ボランティアさんの年齢やそれに伴う健康管理、また飲酒運転防止の取り組みなど「さわやか」で行っている対策を説明させていただきました。

実地調査は午前十時四十分に終了しました。

北九州市保健福祉局
地域福祉部　地域福祉推進課
糸長博美主任（左）と平田典子係長（右）

福岡県に警報発令中！
インフルエンザに気を付けよう

インフルエンザの流行が広まっているとして、福岡県は、今シーズン初めての「警報」を発表し、警戒を呼びかけています。

福岡県によりますと、十一月二〇日からの一週間で、県内一九八の医療機関で確認されたインフルエンザの患者数は、前の週のおよそ1．5倍に増えています。

福岡県がインフルエンザ警報を発表するのは、3シーズンぶりで、二〇〇九年十月以来、過去二番目の早さということです。

感染拡大の影響で、県内の学校や保育所では今シーズンこれまでに、一三〇〇を超える施設で学級閉鎖や休校となっています。

手洗い、うがいを徹底し、インフルエンザ感染の予防をしましょう。

同日開催
北九州市政六〇周年記念 ふれあいフェスタ二〇二三
～ふれあいで、笑顔がふくらむ、人権文化のまちづくり～
第十六回 北九州市障害者芸術祭
～みんなの夢が響く瞬間（とき）、輝くところ～

十一月十九日（日）にウエルとばた二階交流プラザで『北九州市政六〇周年記念ふれあいフェスタ二〇二三～ふれあいで、笑顔がふくらむ、人権文化のまちづくり～』が開催されました。

「さわやか」から山田、高原、貞谷が参加しました。

ふれあいフェスタとは、ステージイベント、パネル展示や人権・福祉 団体によるブースに出展（日常活動の紹介）などを行い、楽しい雰囲気の中で人権の大切さについて考える催しです。

今年も展示ブースでは北九州市障害者団体連絡協議会（以下障団連）の展示コーナーを設け、障害者週間の啓発や、加盟団体のパンフレットやパネル展示などを行ないました。

「さわやか」は、送迎ボランティアの募集のチラシを展示しました。

また、障団連の展示ブースでは障団連の加盟団体の紹介動画が繰り返し上映されました。

そして、ちっちゃな、ほんの少しのボランティア活動を応援するために誕生した北九州市社会福祉協議会のアイドル、プチボザウルスのプチボ体操やプチ手話教室などを実施し、啓発活動を行いました。

プチボザウルスと
モモマルくんがコラボ！

プチボ体操の時には、北九州市の人権の約束事運動に取り組んでいるマスコットキャラクターモモマルくんも駆けつけてくれ、一緒に体操をしてくれました。

ウエルとばた階段前では北九州市タクシー協会が、ユニバーサルデザイン（以下ＵＤ）タクシーの試乗体験会を行ないました。

ＵＤタクシーとは、広い開口部にスライドステップを備え、車椅子のまま乗車ができるなど、障害者や高齢者に配慮された誰もが使いやすいタクシー車両で、一般のタクシー料金で利用が出来ます。

（裏面へつづく）

2023年12月15日　さわやか　第323号

Dr. 江頭眞紀子氏による とっておきのお話し

好評につき【とっておきのお話し】を公益財団法人健和会 健和会京町病院の医師であり、「さわやか」の名誉顧問でもある江頭眞紀子先生に執筆していただきましたのでご紹介します。

ひらめの刺身

公益財団法人健和会　健和会京町病院
医師　江頭　眞紀子

私は小学校四年生。秋だったか冬だったか、吹き降りが激しい嵐のような夜でした。

父親の帰りが遅く、なんとはない不安に寝そびれて、いつになく遅くまでテレビを見ていたのです。もの悲しい音楽が流れ、「日本の素顔　奇病のかげに」というそのドキュメンタリー番組は始まりました。タイトルバックに一人の老人の横顔がシルエットで写り、コップの水を口元に運ぼうとするのですが、ひどく手が震えてしきりと水がこぼれるのです。これが、水俣病を広く世の中に知らせることになった番組だったのでした。酔っ払いのようにふらつく足、視野狭窄などの症状が語られたことを、異様によく覚えています。そして、「水俣の浜辺では、猫がしばしば狂い死にをするのです」……私はその後、「日本の素顔」のテーマ音楽を聴くと、もがきまわる猫の映像を思い出し、テレビのある部屋から飛び出してふとんをひっかぶってしまうのでした。

ところでその番組、こんなふうに語りが入ったように思います。

「水俣の人々は貧しいので魚ばかり食べた。母親たちは自分はあまり食べずに子供たちに食べさせた。それが子供が多く発病し、母親に比較的発病が少なかった理由と思われる」

子供が多く発病し母親たちが症状が軽かったのは、胎児に水銀が濃縮されてしまったからなのです。その事実がわかったのはもう少しあとになってからでした。ともあれ「人々は貧しいので魚ばかり食べた」というのを私は疑問も持たずに聞きました。物流が今ほど発達していない当時、東京の魚はまずかったのです。煮つけも焼き魚も子供だから嫌いでした。刺身もたまには食べましたが、マグロかハマチかイカしかないのです。

九州に来てから魚のおいしいのにおどろきました。

「ひらめが刺身になるんですか！」

「さばの刺身なんて大丈夫なんですか」

私はそんなことを言って、グルメの先生に笑われました。その先生のおごりで、活魚で有名な小料理屋で感激しながらひらめの刺身を食べていたら、隣に座っていた若い女性が、

「生意気と思われるかも知れませんが、私は下関の漁師の家に生まれたので、もっとおいしい魚を食べて育ったんです」

そう、釣ったばかりの魚はもっとおいしいにちがいありません。私は「日本の素顔」の製作者の考えちがいに気がつきました。水俣の人々は貧しいから魚しか食べられなかったのではない、魚がおいしいから食べたのです。

「水俣の人たちは貧しいが、豊かで新鮮な魚をたっぷり食べる、ささやかな権利をもっていたのである……一本釣は朝五時ごろからタチウオ釣に出かけ、八時ごろ帰って、一番大きなのを刺身にして一ぱいやる。午後一時ごろからイイダコ釣に行き、三時ごろに帰って、これを酢ダコにしてまた食べる……といったふうに楽しみながら生計を立てていた。」

原田正純「水俣病」（岩波新書）

胎児性水俣病の解明に取り組んだ原田正純先生も、水俣病患者の魂の訴えをルポした石牟礼道子さんも、彼女の共同作業者の渡辺京二さんも亡くなってしまいました。

でも関連の訴訟は、国が異議をとなえたためまだ続いています。

水俣病はまだ解決に至っていないのです。

（表面よりつづき）

また同日にウエルとばた三階の大ホールで『第十六回北九州市障害者芸術祭～みんなの夢が響く瞬間（とき）、輝くところ～』が行われました。

北九州市障害者芸術祭は、障害のある方の芸術文化活動を通じて、市民の皆様の障害への理解を深め、心のバリアフリーを広げることを目的に開催します。

初めに、北九州市障害者芸術祭作品展の表彰式が行われました。

その後、「らんま先生によるECO実験ショー」が実施されました。

らんま先生は、日本で初めて環境省から環境パフォーマーの認定を受けている方で、今回は環境問題と科学実験を融合した新しい環境パフォーマンスを披露されました。

また、歌手で俳優の堀ちえみさんによる「自分の命は自分だけのものではない」をテーマにした人権講演会がありました。

その他に、国内外の賞を受賞した紀平凱成（きひらかいる）さんの東京二〇二〇パラリンピック開会式楽曲の演奏や北九州消防音楽隊の演奏、歌、ダンスのバリアフリーステージなどがありました。